

大学間発達障害支援ネットワークの構築と幼保専門職業人の養成  
～平成24年度 文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組～

◎幼児教育の専門職業人をを目指す学生の専門性を向上させることにより、発達障害の幼児がニーズにあった支援を幼稚園や保育所で受けることが出来るようにするため、以下の事業を進める。

- ① 発達障害等をテーマとする大学間共通教育プログラムを共同開発。
- ② 連携校が有する療育指導資源を生かして、大学間発達障害支援ネットワークを構築し、地域の療育ニーズに対応。

ステークホルダー  
との課題の共有

幼児の療育をめぐる**構造的な問題**

- 療育情報の共有不足
- 療育指導施設の不足
- 幼・保から小学校への移行支援が不十分

佐賀県内全大学・短大  
〔大学コンソーシアム佐賀〕

- ◆ 佐賀大学
- ◆ 西九州大学
- ◆ 九州龍谷短期大学
- ◆ 佐賀女子短期大学
- ◆ 西九州大学短期大学部
- ◆ 放送大学佐賀学習センター

連携校

ステークホルダー〔連携機関〕

- ◆ 佐賀県
- ◆ 佐賀県教育委員会
- ◆ 佐賀県国公立幼稚園会
- ◆ 佐賀県私立幼稚園連合会
- ◆ 佐賀県保育会
- ◆ 佐賀県届出保育所子育て支援会
- ◆ 佐賀県社会福祉協議会

連携・推進

大学間発達障害支援ネットワークの構築

地域貢献

●佐賀県の大学と地域(自治体等)が連携した大学間発達障害支援ネットワークの構築

- ① 大学間連携による発達障害のある幼児への支援
- ② 佐賀県療育支援センター等の県の機関と連携し、相談や療育指導
- ③ 支援実習の場としてのネットワークの活用
- ④ 発達障害等に関する講演会の開催による理解推進

大学間共通教育プログラムの開発

発達障害への確かな支援力を有する幼保専門職業人の養成

●共同教育の開発・実施

小児保健、心理、教育・保育、福祉・家族支援の各分野に亘る体系的知識の習得と支援実習により、幼児がもつ「困り感」を様々な視点から捉える力の育成と療育指導法の基礎を習得させることを目的  
⇒「子ども発達支援士」の資格認定

●「教育の質保証」に向けたPDCAサイクルの構築

- ◆ 共通評価観点（ループリック）の策定と評価
- ◆ 地域のステークホルダーによる社会的評価の把握と外部評価をもとにした教育改善

《取組の成果》 発達障害の療育ニーズを有する幼児が、継続的に支援を受けることができる。

学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進  
～平成24年度 文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組～

取組大学：千歳科学技術大学（代表校）山梨大学、愛媛大学、**佐賀大学**、北星学園大学、創価大学、愛知大学、桜の聖母短期大学

国立・私立・理系・文系・学部・短大が協力し、英語・数学・日本語・情報等の共通基盤的な教育内容をICT活用で共有し、かつFD・SDを通じて各大学の教育方法も共有しながら質の高い教育プログラムを展開し、知識を着実に展開して問題解決にあたる人材育成を目指す。さらに、ステークホルダの要請に基づき、他大学や地域社会で活用できる汎用性の高い学習内容（教材）や方法を構築し、ユニバーサル時代の日本の教育の質向上への寄与を目指す。

課題、背景

- ◇ 中央教育審議会大学分科会2012：予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ
- ◇ 「大学改革実行プラン」に基づく教育改革の推進

ステークホルダ  
(協働・要請)

- (協働)
- 共通基盤教材の整備
  - 学修観の整備
  - 情報の能力定義 等
- (要請)
- 実証と水平展開

大学間連携共同教育推進委員会 (FD/SD)

～現eラーニング実施先進大学間連携～

- クラウド上の教育資源  
(基盤教材・シラバス・到達度テスト)
- ①初年次の学修支援
- ②キャリア系の学修支援
- ③体験型・交流型の教育プログラム

私立大学  
創価大学

私立大学  
千歳科学技術大学  
(代表校)

国立大学法人  
佐賀大学

私立大学  
北星学園大学

国立大学法人  
愛媛大学

私立大学  
愛知大学

国立大学法人  
山梨大学

私立短期大学  
桜の聖母短期大学

協力体制：ステークホルダ  
大学eラーニング協議会  
日本リメディアル教育学会  
日本情報科教育学会

期待される効果

「質の高い学士力の確保」と「主体的な学びの促進」

社会への波及

「他大学や地域社会で活用できる汎用性の高い学習内容(教材)や方法を構築

取組大学：愛媛大学(代表校),山口大学,香川大学,佐賀大学,京都外国語大学,京都文教大学,広島経済大学,松山大学,九州国際大学,京都外国語短期大学

本取組では、連携する大学群及び各機関と協働のうえ、「異文化交流型リーダーシップ・ネットワーク」を形成し、西日本の大学から世界で活躍し「学び続けるリーダー」を輩出。

背景

学生に対するリーダーシップ力の醸成は、学士力、社会人基礎力、各大学ディプロマポリシーに限らず、経済界や地域社会からも期待が寄せられている。

現状

専門領域に偏らないスタンダード・リーダーシップを体系的に提供する大学はない。また、慣れ親しんだ仲間との環境下では、その関係を再構築しても、新たなリーダーシップの醸成には限界がある。

ポイント

学内・国内外に新たなフィールドを求め、「立場や世代間、文化背景の異なりを超えた」プログラムを拡充・拡大し、学生に提供する。また、本事業に関わる教職員の能力開発を持続的に行う。

プログラム(事業)の概要

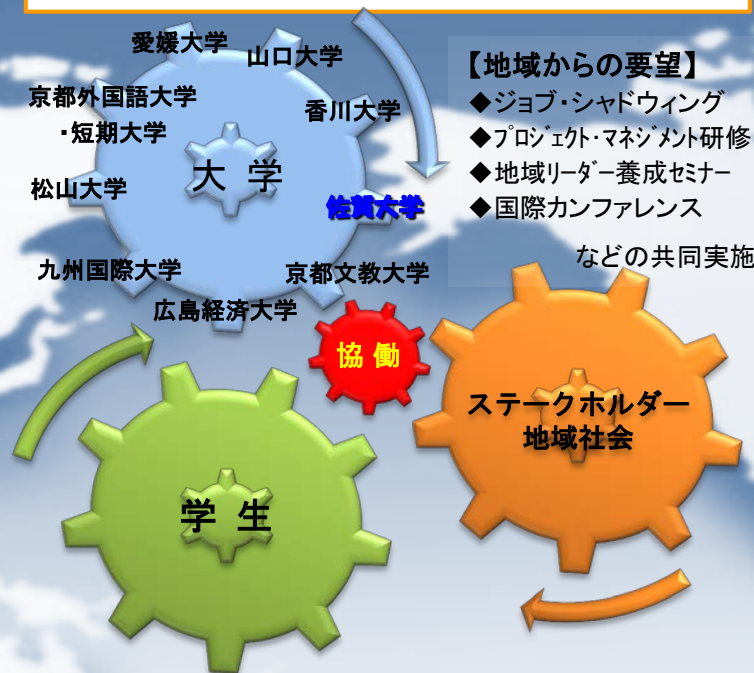
学び続けるリーダー  
世界で活躍できる人材へ



持続的なりリーダーシップ  
養成のための教職員の能力開発

ステークホルダーの要請と関係

地域や国際社会で活躍できる人材育成



連携機関/関連大学コンソーシアム

松山市青年会議所、(財)えひめ女性財団、愛媛県企業経営者勉強会、アジア太平洋学生支援協会 (APSSA)、大学教育学会、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)

期待される成果

体系的・段階的・継続的な  
学生リーダーシップ養成  
プログラムの確立

リーダーシップ評価指標の開発

経験を学びに変える  
省察手法の標準化

持続的なりリーダーシップ養成  
のための教職員能力プログラムの  
確立

リーダーシップを培うための  
多様なフィールドの提供